

平成 18 年度新興・再興感染症研究事業における採択方針

資料⑥

課題番号	公募研究課題の内容
18240101	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究
18240201	病原微生物の使用、管理及び廃棄の適正化に関する研究
18240301	小児が罹患しやすい感染症の重症化防止及び予防接種に関する研究
18240401	動物由来感染症のコントロール法の確立に関する研究
18240501	節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究
18240601	ハンセン症の予防・診断・治療に関する研究
18240701	薬剤耐性菌及び結核菌に関する研究
18240801	臓器移植や悪性腫瘍による免疫低下状態で発生するウイルス感染症の予防と治療に関する研究
18240901	リケッチア感染症の国内実態調査及び早期診断体制の確立警鐘システムの構築
18241001	効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究
18241101	広域における食品由来感染症を迅速に探知するために必要な情報に関する研究

厚生労働省科学研究補助金（新興・再興感染症研究事業）

分担研究者

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究（分担報告）

分担研究者 中嶋健介 国立感染症研究所 国際協力室

研究要旨

研究評価法に関する文献及び他の研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析し、新興・再興感染症研究事業のより効果的な評価方法について検討した。

A 研究目的

新興・再興感染症研究事業においては、学術的のみならず、その研究結果を新興・再興感染症対策に反映しうる、厚生労働行政への貢献度についても適切に評価する必要がある。そのため、「新興・再興感染症研究の企画及び評価に関する研究」において、実際に評価委員会を行い、適切な評価のあり方について検討することを目的とした。

B 研究方法

研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析を行い、平成 17 年度新興・再興感染症研究事業に事前評価委員会及び中間・事後評価委員会の運営を通じて、計画性の妥当性、研究継続能力、厚生労働行政への貢献度等を中心に、適切な評価のあり方について検討した。また、研究協力体制の構築

も重要であることから、海外においても調査を実施した。特にウエストナイル熱については、北米大陸での流行が続く中、昨今、シベリアでのヒト、野鳥での発生が伝えられ、去年は極東地域において死亡野鳥からウイルスが分離されたとの未確認の情報がもたらされた。シベリアから我が国へは、多種の冬鳥の渡り鳥が飛来し、現地での本ウイルスの流行状況によっては、渡り鳥により我が国への本病の侵入がもたらされることが懸念される。そこで今般、渡り鳥の飛翔地であるシベリアでのウエストナイルウイルスの実態把握の方法の検討に資すべく、国内の他機関との連携した調査の可能性、及び現地においてロシア研究機関との連携した調査の可能性を探った。特に今回は、国内他機関として北海道大学のウエストナイル熱に関する文部科学省研究班と共同し、極東地区におけるロシア側の調査担当機関であるウラジオストク国立微生物研究所、

及びハバロフスク国立ペスト予防研究所を訪問視察し、その後当該研究機関とともに合同で、渡り鳥の代表的な営巣地であるハンカ湖周辺、及びアムール川支流源流域にて、渡り鳥からの検体採取の試行調査を行った。その結果、現地研究機関のうちハバロフスク国立ペスト予防研究所においては、研究資金の調達に困難はあるものの、十分なウイルス検査・保管に関わる知見・技術と設備を持ち、また渡り鳥と媒介節足動物調査能力を有し、脳炎ウイルスの他、鳥インフルエンザウイルスの調査研究を、ロシア連邦の中央研究機関と連携して実施していることが確認された。同研究所は、自然界におけるウイルスの生態解明の調査研究においては、むしろ我が国の機関を上回る実績と能力を有していることがうかがわれ、今後、我が国研究機関のカウンターパートに十分なりうるもの考えられた。なお文部科学省研究班の北海道大学チームにおいては、すでに相当のシベリア調査実績を有しており、現地機関との連携及び共同研究について、十分な知見と実施能力を持っていることから、今後のウエストナイル熱に関わる厚生科学研究班の参考となると思料された。

C 研究結果

一般的に、研究評価を行う際には、評価の時期、評価の目的、評価項目（対象）、評価を行う者の選定、評価方法について検討し、それぞれの研究特性に適合した組み合わせを用いることにより行われる。平成 17 年度新興・再興感染症研究事業においては、昨年度に続き、事前評価委員会及び中間・事後に関しては、主任研究者からこの間における研究成果の発表いただき、併せて評価委員会を実施した。また、その実施にあたっては、他の研究事業との比較・検討及び過去の問題点等を踏まえ、改善を試みた。

D 結論

新興・再興感染症研究事業の評価において、研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析及び評価委員会の運営を通して、より適切な評価を行うための手法についての有益な所見が得られた。